



沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議

(子ども未来ジョイントプロジェクト助成事業報告会)

沖縄の子どもの貧困対策が理想とする子どもの将来像とは
どういう状態なのか、みんなで考える

実施報告書

日 時： 2018年3月14日（水）18:30-21:00
場 所： 沖縄県教職員共済会館 八汐荘 4階 中会議室（沖縄県那覇市松尾1丁目6番1号）
主 催： 沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】 沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議



- 日時：2018年3月14日（水）18:30-21:00
- 場所：沖縄県教職員共済会館 八汐荘4階中会議室
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：52名（教育関係・行政・NPO・大学・企業）
- 主催：沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
- 協力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供

喜舎場 健太 氏（沖縄子どもの未来県民会議 事務局長）

沖縄の子どもの貧困対策が理想とする子どもの将来像とは どういう状態なのか、みんなで考える

沖縄県で実施した平成27年度「子どもの貧困実態調査」において、29.9%の子どもが貧困状態に置かれていることが明らかになったほか、平成28年3月には、子どもの貧困対策の基本方向を定める「沖縄県子どもの貧困対策計画」を策定しました。そうした中、県民の総力を結集し、沖縄の未来を創造する子どもたちが安心して暮らせるよう、同年6月に県内各界各層の110団体からなる「沖縄子どもの未来県民会議」を設立し、子どもの学びと育ちを社会全体で支え、地域の実情に即した対策に取り組むこととしております。今回の円卓会議では、沖縄子どもの未来県民会議で実施した「子ども未来ジョイントプロジェクト助成事業」の助成団体3団体から助成事業の進捗報告とともに、沖縄の子どもの貧困対策が理想とする子どもの将来像とはどういう状態なのか、みんなで考え、議論します。県民のみなさんや関係者、専門家の方々と一緒に、考えていきたいと思っております。

センターメンバー



喜舎場 健太
沖縄子どもの未来県民会議
事務局長



比嘉 利作
株式会社 KPG
HOTEL &
RESORT
人事支配人



坂 晴紀
NPO 法人
エンカレッジ
理事長



金城 隆一
NPO 法人沖縄青少
年自立援助センタ
ーちゅらゆい
代表理事



比嘉 昌哉
沖縄国際大学
総合文化学部
人間福祉学科
教授



西里 大輝
沖縄タイムス社
社会部 記者

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 沖縄県の貧困に関わる基礎情報
 - ✓ 子どもの貧困率は 29.9%。ひとり親世帯の貧困率は 58.9%である
 - ✓ 小中学校、高等学校の不登校生徒数の割合や高等学校の中途退学率、10代での出産割合が全国で一番高い
 - ✓ 貧困世帯の小学校 5年生アンケート結果、「自分は価値のある人間だとは思わない」との回答が 20.1%
 - ✓ 沖縄県子どもの貧困対策推進基金（平成 29年度/4.6億円）は、小中学校における就学援助など、既存の行政施策の充実化を行う（以下、平成を H と記載）
 - ✓ 子育て総合支援モデル事業（H29年度/3.7億円）は、低所得世帯の子ども達に対し無料で学習支援等を行う
 - 内閣府（沖縄子供の貧困緊急対策事業、H29年度予算額 11億円）は、各市町村に貧困対策に特化した支援員を 28市町村に 113名配置。また、居場所を 26市町村に 131箇所設置（H29年現在）
 - 沖縄子どもの未来県民会議（以下:県民会議）は 2年前に発足し、民間や行政などの 110団体が協力して貧困問題に取り組んでいる
 - 子ども未来支援事業（H29年度 53,400千円、県民会議の事業）
 - ✓ 児童養護施設の退所者等への大学等進学の給付型奨学金を給付
 - ✓ 低所得世帯の高校生の通学に係るモノレール運賃を半額にしている。H30年1月までに 150名が利用
 - ✓ 構成団体が繋がり、協働して子どもの貧困対策を行う子ども未来ジョイントプロジェクト助成事業の実施
 - 沖縄タイムス社では、入学応援給付金という事業を H29年度から始めた。入学前に、小学生は 3万円、中学生は 4万円を給付する。民生委員や学校等が呼びかけ、652名に給付できた
 - 子ども未来ジョイントプロジェクト助成事業報告会
- 【報告】美さと児童園支援事業及び就職・進学支援事業**
団体名：(株) KPG HOTEL & RESORT（以下:KPG）
コザロータリークラブ
- ✓ 助成金を受ける前から自主事業として、美さと児童園の子ども達（48名）に、クリスマス会等を行っていた
 - ✓ 講師の先生を呼んで、週 1回、パソコンスキル講習支援を行う。高校 3年生の 5名が参加。児童園の職員 2～3名も参加して、将来的には職員がパソコンを教えられるようになることを目的としている
 - ✓ 九州企業視察（H30年 2/13～2/15）において、高校生から 1番高評価だったのは、KPG が手掛ける何十億円の事業開発の話であった（高校 3年生の 5名が参加）

【報告】食と学びと働くを通じた子どもの貧困対策事業

団体名：NPO 法人エンカレッジ（以下:エンカレッジ）
NPO 法人フードバンク 2h 沖縄（以下:フードバンク）

（公財）沖縄県労働者福祉基金協会（以下:労福協）

- ✓ エンカレッジが行う教室に通う小・中学生 900名の特徴。①塾に行きたいが、経済的理由で諦めていた子 20%。②学習以前の問題を抱え、学習+ケアが必要な子 75%。③保護者に支援を活用する力がなく、制度に繋げる必要がある子 5%。上記の子達が同じ教室と一緒に学んでいる
- ✓ 高校生フォローアップ教室（以下:教室）の取り組みでは、①学びプロジェクト（学習や進路相談、キャリア教育等）、②食プロジェクト（食事を一緒に作る）、③働くプロジェクト（資格取得支援やアルバイト支援）の 3つから自立へ向けて多方面から支援している
- ✓ 那覇の教室への登録は 15名。また、エンカレッジの卒業生や、登録していない子向けにもイベントを行い、プラス 10名が相談や体験に来ている。日常の自習室利用者は大体 6～7名/日。中学 3年生へのアンケートで、高校進学後のアルバイト希望者は 87%だった。教室に来れない原因となっている
- ✓ フードバンクでは、求められる食材が、安定して得られない課題があるが、群馬県では、お米の寄付が集まる傾向にある。そこで、元々繋がりがあった輸送業者の協力を得て、600～800kgの食品の輸送（大阪～沖縄間）を一回 1万円程度で特別に送って貰っている

【報告】就労・住居支援を伴う子どもの暮らし応援事業

団体名：NPO 法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい
（子どもの居場所・kukulu（以下:kukulu）を運営）

沖縄県中小企業家同友会

（有）日建開発

- ✓ kukulu では、小学校高学年から高校生年齢の生活困窮で不登校の子ども達を対象とし、子ども達の「やってみたいこと」をプログラムにしている
- ✓ kukulu でのサポートを軸とし、シェアハウスによる住居支援と就労支援から、孤立の回避と負の連鎖を断ち切ることを目的に本事業を行った
- ✓ 勉強できる環境にない子に、ゆっくりと自分の人生を生きれる場所としてシェアハウスを考案。5月開始予定。定員は 4名（3名決定）。「家から出たい」と切実に思う子など、ニーズは高い
- ✓ 就労支援として、社長と子ども達が一緒に「ゆんたく」することから始めている。徐々に仲良くなってくると、会社の中のおもしろい出来事などをお話しながら、仕事に興味を持ってもらい、職場見学を行っていく

評価の提供

- 今回のジョイントプロジェクトでは、受託した3団体共に、一団体では上手くいかなかった課題を連携団体と共有して、ビジョンを持って進んでいる
- 子どもの貧困は、元々は親、家庭の貧困である。今の社会は親、家庭に対して責任を求めることが多い。親、家庭支援をどのように行うのかも課題
- 厳しい経験をしている子ども達を支援していくには、多くの時間を要する。自己肯定感がとても低いため、どう高めてあげるかが、3団体のキーワードになっている
- 子どもの貧困問題は、社会保障の面だけではもう解決できない。様々な分野に子ども達は関係しており、地域や企業もすでに取り組み、県民運動の一つであると思う

視点の提供

- 子どもの貧困は、孤立や不十分な食など、成長に大きく影響を与える負の連鎖が、沖縄ではすでに続いている
- 新聞、テレビ、ネットでも支援の情報が届かない層がいる。そういう人達が、本当は支援が必要だと思うが、支援の情報をどう届けるかも、根が深い問題だと思う
- 今を支えてくれる大人が周りにいることを、知ってもらうことが、これからは必要だと思う
- 困窮世帯は、仕事をしていて、時間をつくるのが難しい。自力で情報を取得できない人達にどうアプローチをするか
- 自己肯定感が低いと、夢や希望を持ちにくく、楽しくなくなる。その為、別の道に行くことや、自分を表現できないなど、悪循環に繋がる。自己肯定感を養って始めて、自立した社会人に繋がっていく
- 自己肯定感を養うために、一番大切なことは、支援者が見捨てないこと。そして、褒める、認めるということ
- 上から目線ではなく、徹底的に子どもの側に立つことは、子ども達と接する全ての支援者に持ってほしい
- 「助けて」と他者に頼ることができることも、一つの力。その延長線上に自立というものがあり、他者に頼りながら成長する力も自立に向かう
- 厳しい環境にいる子ども達の周りに、モデルとなる大人がいない。多様な経験や多くの大人と関わることで、子ども達が様々な感じて、進みたい道を探っていく。それで夢が生まれてくる
- 職場見学をした子から、「仕事はつらいもの、との印象があり、働きたくないと思っていた。しかし、作業風景を見ると、職員が明るいことに気づいた」との声があり、現場を見てもらうことは大切だと実感した
- 子ども達も自分で決めたいという意思をもっており、できることは自分で行き、主体性を育むようにしたい
- 個々によって、自立に向けての課題は異なるため、きめ細やかな支援が必要になる
- 就職して経済的活動を行い、自分の子ども達に教育環境を与えられると、負の連鎖の解消につながる
- 自立訓練では、「一人でも生活できる力」を身につけようと頑張るが、一人で頑張ることは、孤立を生むのでは
- 安心できる居場所の中での、自立に向けた3つの段階：
①褒められるために頑張る、②達成感のために頑張る、③知的欲求のために頑張る
- やさしい大人に「頑張ろうね」と言われることや、一生懸命、支援してくれる大人を見ると、ついつい弱音・本音を言えなくなる
- 支援を受けた子達の中に、「大人になったら支援する側に回ります」と、言ってくれる子がいる。支援が続くことで、支援を受けた子達が、将来的な支援者になり、貧困の連鎖を断ち切れるのでは
- 子どもの立ち位置に立ち続けること、そうすると、子ども達は色々な事を話してくれる
- 「大人の顔をうかがって行動してしまう。そうすると大人が期待している答えが、何となく分かる」。このように思わせたくない。子どもとして、もっと自由に生きて欲しい
- kukulu に来ていた大半の子達は、中学卒業と同時に大人になろうとする。もっと子どもでいて良いと言いたい
- 支援メニューが多様であり、子どもが主体的に選べる状態が良い。kukulu からエンカレッジに行った子もいるし、その逆もある

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 子ども支援は子どもの立場に立ち、子どもからも支援メニューを選べるように
- 子どもだけに「自立」を押し付けず、地域社会に頼れる関係性づくりを
- 子どもをめぐる課題はその環境により多種多様、支援を境目なく官民協働で
- 子どもの困難な状態を自分のこととして考えられる情報の伝え方を考える
- 子どもの育つ環境の理想像の議論をさらに地域で深めよう

■参加者によるサブセッション

「沖縄の子どもの貧困対策が理想とする子どもの将来像とは どういう状態なのか、みんなで考える」(原文のまま)

- ① 意見や考え
自立：自分で考えて行動できる子
ほめる、怒るとかせず、ありのままを求める
子どもの意見と学校の意見は違う
- ② 親の支援は？対策は？
子どもに最も触れる機会の多い教員は？
平田（アイデア）→施設で舞台をつくる
3団体対象がもうらされて
6公●●採択3団体？
情報共有の為必要→個人的には
- ③ 観光立県沖縄の視点から何かサポートできないのか？
☆ニーズがあるのに人が来ない…
↳子供達がチームで企業の手助けをする。ゆるめのアルバイト体験
↳民泊・ホテル
↳段階をふんで、自身をつけさせる。
- ④ 沖縄—世界的な視野—オキナワという小さな場
子供が幸せである
貧困対策→将来像で考える。
幸せ・学習の場をうばわれていない状態
行政だけではなく民間ももっと繋がる
繋がれる社会
子どもたちが「助けて」と言える。それに答えられる社会
色々な所に居場所がある
- ⑤ 貧困の連鎖を断って、夢や希望をもって生きていく
その時期にしかできないことを断ってアルバイトするのは果たしていいのか？
早過ぎる自立を強いてはいけないのでは？
成長に必要な時間を与えてあげたい
人に助けを求めることも「自立」
- ⑥ 独りで生きて行くことが貧困を生んでいる。
沖縄はスラムがなかった。島社会ができた。
分かち合いと、話し合い
貧困だけど困窮がない。
助け合える場、ゆいまーる、農業
ベーシックインカムというアイデア→自治が大切。労働の価値が変わる
貧困はイメージが昔と違う。
価値ある人
- ⑦ “恩返し”次世代の子どもへ、社会へ
情報⇒受け取る側の
※セキュリティー問題も!!
自立=みんなで支え合う（コミュニティ）
低年齢出産
そもそも貧困に気づいていない
- ⑧ 出産のポイントで支援／親支援
沖縄 vs 他県（福岡、大阪）違いは…？
背景戦後？
同友会（月会費払ってる）が関わることに意味がある
いま貧困じゃない子も…
- ⑨ 支援者の生活も大事では。
子どもの支援は切れていく事が多い(実際は)
切れ目のない支援をどうつくるのか。
地域と情報を共有するネットワークがあれば。
- ⑩ 支えられる人
- ⑪ 「生きる力」⇒身に付ける
⇒社会に出て、フォローする仕組み。理解する。
→自らの力で=自立←関わる大人がどう仕向けていくか
理想の自立
・衣食住が足りている

- ・自己肯定し夢を持てる
- ・子どもにお金をかける

⑫ 衣食住が足りている

自分の力を使って、自立できる

自分のやりたいことがやれる＝社会の中に

居場所がある

⑬ 自己肯定感を育めるような居場所があること

⑭ 地域の中にコミュニティーを作り、その中に子どもの居場所がある

沖縄子どもの未来県民会議地域円卓会議 参加者アンケート集計

◆概要

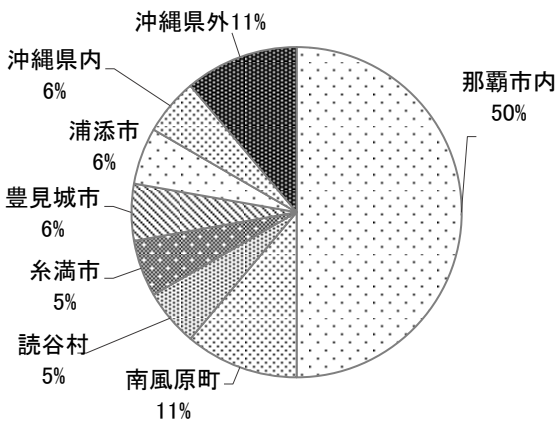
- ・日時：2018年3月14日（水）18:30-21:00
- ・場所：沖縄県教職員共済会館 八汐荘
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：52名（アンケート回収19名、回収率37%）

4. 満足度

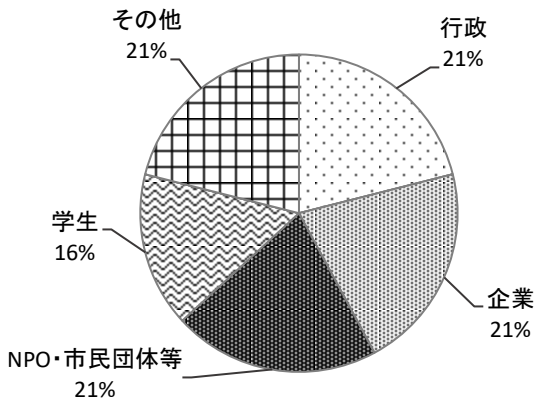
平均：4.8（5点中）

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足していない	1.不満足
15名	4名	0名	0名	0名

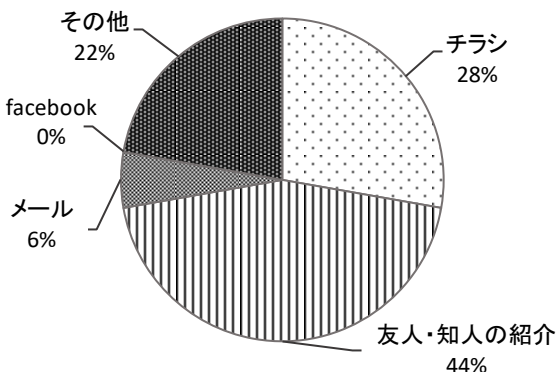
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 具体的な事業の取組を聞いて、リアルに子どもの貧困の環境を知ることになりました。「自分に何ができるのかな！」を持ち帰ります。
- ・ 居場所、企業、先生、メディアの方々からのいろんな角度からのお話が聞けてよかったです。それと共に、自分にできること役割を改めて考えることができました。
- ・ このような会議を開催されていること
- ・ 現場で向き合っている様々な方の生の声が聞けて、非常に勉強になりました。問題意識を持つことが出来ました。
- ・ 民間も貧困に関われるということ、初めて知った。
- ・ きけないことがきけてよかった。
- ・ 多種多様な機関の話聞くことができ、どのような活動を行い、結果報告等を聞くことができた
- ・ “円卓会議”として良い。全員参加型で実りがある。
- ・ プロジェクトの内容が良く分かり、ファシリテーションも良かったです。
- ・ 沖縄の貧困について知ることができた。そして、いろんな形で支援している民間人が沢山いること（これは模範精神？）。自己肯定感を高める→これは貧困に限らないのでは？（カナダで1ドルの子育て支援をおしめば、7ドルのつけとなる）←という言葉があります。
- ・ 子どもの未来県民会議の取組が良くわかり

ました。いくつもの支援が始まっていて、心強く思いました。

- ・ 各団体の活動内容やその熱い思いを知ることができました。
- ・ 子どもの貧困という大きな問題に対して、たくさんの方が、いろんなアプローチをしていることがわかったから。
- ・ あらゆる立場の方と情報を共有できた。知り合えた（子ども食堂）→つながる
- ・ 進め方、メモ、すばらしかったです。

(4. 概ね満足)

- ・ いろいろな意見、活動を知ることができた。まず、情報の共有が、知恵と富と力の結集につながると思った。
- ・ 子供達の手助けをするために、各種事業、取り組みがあることがわかった。貧困と言っても様々な形があり、そこに巻き込まれた子供達にも多種多様な状況があり、形の決まったサポートではそぐわない。子供達がサポートを選択し、自由に生きることができる環境の整備。そういった事を学べた。
- ・ 色々な分野、業界の話が出来た。

6. 印象に残ったこと

- ・ 20数年前に、今日話した支援団体があれば、救えた子供がいたのにと感じた。
こんなにつらい状況で、よく生きていることを、初めて、話して聞いてくれる人がいることから出発するのはとても大事だと思う。金城さんの自立の考え方に賛同します。
- ・ 施設に 48 人の子どもがいると聞きました！
「自己肯定感を養う」意味で、最も効果的な「共に舞台をつくる」を挑戦してみたい！
「施設の子、全員参加で 1 つの物語をつくる」夢が生まれました。
- ・ Q の内容と違いますが、「貧困対策」という名称は変えられないのでしょうか。広い分野で関心をもってもらい、支援者を増やすという面では良いと思いますが。支援をする側、

受ける側はこちより、言葉ではないと思います。

- ・ 情報を伝達、共有していくこと
- ・ 今まで関わっていない関係者と連携したシェアハウスは新たな取り組みだと思いました。取組後の入居者さんの意識がどう変わるのか、効果を見てみたいと思いました。
- ・ 子供の視点に立つ。
- ・ 自立→孤立を生むこともある。助け合うことが必要。（他者に頼りながら大人になることも自立につながる）様々なサポートの形と受皿が必要。子育て支援のようで親の支援が必要。横のつながり／支援者同士
- ・ 自己肯定感を育むことが重要だと、よくわかりました。学校現場でもっとできることがあるのか、何ができるのかを考えていきたいと思います。
- ・ 観光の面で何かできないか、他の参加者と話せたことが良かった。沖縄という観光立県で、子供達が継続的に将来に関わっていける（夢を抱ける）仕組みを考えていきたい。サポートをしている団体と連携し、何か取り組みたい。
- ・ 負→良い連鎖にしていく。子どもの立ち位置に立つ
- ・ 自立が逆に孤立につながる。
大人に早くなる必要がある悲しさ。

(写真) 会場の様子



子ども未来ジョイントプロジェクト助成事業報告会
 沖縄子どもの未来県民会議 2018.3.14 (水) 15:30 ~ 21:00
 @ハヤビヤ
地域円卓会議
 地域の垣を越え、関係者同士の共有する場

会場：比嘉、坂、金城、西里、比嘉

沖縄の子どもの貧困対策が理想とする子どもの将来像は、
 どういう状態なのか。
 みんなで考える

主催 沖縄県
 沖縄子どもの未来県民会議

子どもの目標に立つ
 子ども持ち×メニューの多様性
 家庭支援でどうするか、
 情報も正しく共有するか (×7:17)

論点提供 ②

行事への参加 友人知人の存在 社会とのつながり

2年前発足した110官民の団体

子どもの貧困率 29.9%
 (ひとり親世帯の貧困率 58.9%)

経済的貧困 (社会的弱者、低学力)

大人の貧困 次世代へ

子どもの自己肯定感 1.5 思えば 20%

内閣府 11400 支援員 4.6400 就学援助
 居場所 3.7400 学習支援

県民会費 0.84000 奨学金 150%
 モニター半額

協働、子どもに合わせたサポート 助成 3事業

比嘉 ③ (調)KPG

美里 児童園
 コラボカフェ

49名の子供たち

自主支援
 クラマスタ 交流会 激励会
 進学 就職について 意見交換会

パソコンスキル講習支援
 国の職員も参加 週1回のPC講習 高3→6人

九州企業視察
 長崎・福岡・佐賀 3日~15日 大人の仕事体験 高3→5名 事業開発 (両側) 電車乗車 施設見学

夢実現 自立 経済 精神

社会と接する機会が少ない (大人) 個々のきめ細やかな関わり

坂 ④

小中+高校生

塾行きたらとあきらめていた 2名
 学習のせいの問題もかた 7.5割 (生活面・自己肯定感)
 資源と活用がわかない 0.5割

いじめに学んでいる 負の連鎖の解消
 ↳ 高校進路では解消されない
 ↳ 高校中退率が高い
 ↳ 社会人にならざる経済活動へ

中3アンケート 3割以上希望 (8割以上) 収入認定 北田東がの お米の輸送の実現

自己肯定感と自立
 あきらめる 楽しくない

高校進学 塾進学
 学費のサポート エンゼル教室

学費のサポート エンゼル教室

倉 1000円以上
 物 1000円以上 学用品

那覇: 16名 + 10名 (日本67名/10)

金城 ⑤

子どもたちのニーズに 3カテゴリー

不登校 kukulu

シェアハウス

17歳の子 2児の母
 ↳ 一人で頑張る⇒孤立
 ↳ その中で、
 ↳ 個人体験!
 ↳ わたし大人に大人はれ、と
 ↳ 言われると 弱音 本音を
 ↳ 言えなくなると

10人兄弟の長女 深夜まで養育

シェアハウス 入居者1号

日建団業
 kukulu 大通 50㎡ 中央企業家 同友会 1200社
 募集 200名 募集年数 (10年)

出会う 知り 協同 理解 自己決定

自立とは...
 ↳ 失敗してもいい
 ↳ 自分だけの力でやらせてもらえる
 ↳ 在りていい

切実... 家から出たい!

比嘉 ⑥ 佐生 沖縄国際大学

食・教育・生活...

トータル支援... つながっている。

協働事業... 1つの団体ではできないこと

自己肯定感の低下
 ↳ どう高めようか

負の連鎖
 ↳ 親支援・家庭支援でどうするか
 ↳ 親との信頼関係 旧住居への連絡

西里 ⑦ 沖縄タイムス 社会部

子ども未来プロジェクト
 届かぬ届かぬ情報(どう)届かぬ
 困窮世帯⇒時間と金が足りない

入学支援給付金
 (小) ⇒ 3万円 介護会 民生委員 学校...
 (中) ⇒ 4万円 652名

自ら支えたい大人
 子で大人への支えの個人
 支援が統括して正の連鎖へ
 統括して届けること

⑦

中学卒業と同時に大人にならざる

「助けて」と言えること

子どもの立ち立ち
 ↳ 立ち立ち
 ↳ 立ち立ち

子どもの自由な生活

子どもは...
 ↳ 自由に生活してほしい
 ↳ メディカル 200名 社員の目標

多様性 子どもの多様なニーズ

連携 おおきな大人

いろいろな大人が
 ↳ ちがっていい

企業とどうあるべきか

ギモン視 するところ

親の支援は？ 父が？ 母が？
 子に何を教える？ 経験？ 知識？
 子どもの自立を促す？
 3. 子供が自立できるように？
 6. 公的な支援？
 情報を知る必要がある。
 → 10人くらい。

意見や考え
 自立
 自分で考えて行動できる子
 ほめる、怒るとかせず。
 ありのままを求める
 子どもの意見と学校の意見は違う

貧困の連鎖を断ち、
 夢や希望をもって生きていく
 その時期にいかできない
 ことを断ってアルバイトする
 は果たしていいのか？
 早過ぎる自立を強いて
 はいけないうては？

必要の時間を与えて
 成長に あげたい。
 人に助けを求めること
 「自立」

親が生まれて行く
 ことが 貧困をなく
 ている。

沖縄系は、スラムの
 島社会ができて
 分かった。話し合い
 協同組合を(国策)
 により
 自らの自立した場。 勉強

恩返し、社会へ。
 次世代の
 子どもの
 情報⇒受け取る側の
 自立⇒おこなって支え合う
 (コミュニティー)

他年齢出産
 そろそろ貧困に気づいて
 いる。
 親と島県沖縄の
 視点から何かサポート
 できるの？
 * ニーズがあるのに人が
 少ない...
 ↳ 子育支援がチームで
 企業の柔軟性がある。
 ↳ 子どものアルバイト経験
 ↳ 民泊・ホテル
 ↳ 段階をふんで
 自信をつけさせる。

テーマ
 ① 沖縄系、世界的視野
 ② オナチツヒの文化
 ③ 子供たちと共感
 ④ 貧困対策 → 将来像を構想
 ⑤ 社会、学習の場をどうはたかせるか
 ⑥ 行政と民間の連携をどうつなげるか
 ⑦ つながれる社会
 ⑧ 子どもは「自立」
 と考える
 ⑨ それに答える社会
 ⑩ いろいろな所に
 居場所がある

出産のポイントで支援
 沖縄 vs 他県 親を後
 福田 後
 ちがいは...???

同友会(月会費払ってる)が
 関わることに意味がある
 仕組み

もし貧困に陥る
 子も...
 親の生活が
 子どもの自立を促す
 ことにできるか？
 (支援は)
 子どもの自立を促す
 ことができるか？
 地域と関係性を
 築く必要がある

支えられる人

地域の中に
 コミュニティーを作り
 その中に子どもの
 居場所がある。

- 衣食住が足りている
- 自立の力を促して自立できる
- 自立のやりがいを感じられる
- 社会の中で居場所がある

自己肯定感と
 はぐくめるような
 居場所があること。

「生きる力」=身に付ける
 ↓
 社会に促して、フォローする仕組み
 自らの力で「理解する」
 自立 ←
 関わる大人がどう関わっていくか
 理想の自立
 ・ 衣食住が足りている
 ・ 自己肯定感を育める
 ・ 子に合った居場所がある